

復学ニーズ調査アンケート結果

以下に、復学に関連するニーズ調査アンケートの結果の概略を項目別に報告する。入院中の地元校からのサポート、院内学級に関連する内容（転籍手続き、院内学級の教師と地元校との連携で望む内容）、主治医と地元校との連携で望む内容、復学直前時のサポート内容、患児の復学への不安、入院中のクラス替えに関する内容である。

- 1 入院中の地元校からの支援や配慮での精神的な支え

勉強を見てくれたこと

担任に先生やクラスメイトからの手紙

担任の先生のお見舞い

患児の院内での情報をクラスメイトやその保護者に届ける

外泊時への配慮

転籍したことへの配慮

その他 校長先生の転校手続き

- 1 入院中の地元校からの支援や配慮に対する不満や不安

クラスの友だちとの関係が構築されていない

学校側の都合のための連絡のように感じる

院内学級への転籍後は連携が疎遠となる

担任教師が変わったことによる不安・不満

交流が疎遠になることへの不安

- 1 院内学級に関する制度で面倒だった点、改善して欲しい点

重複・複籍制度の導入の希望

院内学級の役割や誰に何をたずねればよいのか分からなかった

区役所での手続きの必要性や、そこでの対応

教科書や進度が異なることへの不満

- 2 院内学級の教師と、地元校との連携内容に望むこと

学習内容とその進行具合

子どもの不安や要望を地元校に伝えてもらう

院内学級での患児の様子

特に免疫不全の状態であることの疾患に関する情報

クラスメイトとの関係についてのアドバイス

- 3 院内学級の教師と復学に関する話し合いの内容

退院後の訪問教育と、その後の復学に関する相談

受容的な言葉掛け

学習の進度や、学習上の体力面に関する情報などに関する内容

復学に関する前例

地元校との連携を取る際へのアドバイス

- 1 主治医と地元校との間で連携を望む内容

医学的情報の説明

今後の連携に関する内容

入院中の子どもの頑張り

学校での配慮の重要性

家族の希望を伝えてもらう

- 1 通学前の配慮や精神的な支えや安定に結びついた内容

体力が回復するまでの介護士の配置

籍がないにもかかわらず、院内学級の先生の継続した関わり

教育委員会との話し合いの際、院内学級の教師が協力してくれたこと

地元校の情報を伝えてくれたこと

保健室登校などに理解があったこと

保健室の先生の理解

地元校の子どものことを分ろうとする態度

復学前に、クラスメイトや全ての児童生徒への十分な説明

施設面での整備

歓迎会

- 1 復学するに当たって、患児が不安だったこと

容姿の変化

体力の低下

学習の遅れ

クラスメイトとの関係

再発への不安

感染について

担任教師の病気への理解度

- 2 不安を解消するために必要だったこと

入院中の地元校との連携

保護者の積極性

小児がんに理解のある担任教師

- 1 入院中のクラス替えで、精神的な支えや安定に結びついたこと

復学を前提とする態度

患児のことをよく知る子どもを同じクラスにしてくれる

担任が変わった際の十分な引継ぎ

担任教師を決定する際の配慮

留年することへの協力

- 2 入院中のクラス替えで、不安や不満に感じた内容

学校との連携が薄くなったこと

結果の要約

制度上の転籍という言葉は、患児・保護者には復学への大きな不安となっている

入院中の地元校とのつながりが重要であり、地元校が認識する必要がある

地元校との「つながり」を患児・家族が実感できるような支援が有効である

「つながり」を阻害する要因として、クラス替えがあるが、工夫することで回避可能

患児・保護者の復学に関する不安を地元校に伝える必要性がある

上記 を保護者が全て対処することは困難であり、同じ教師という立場での院内学級の教師、医師などが介在し、それぞれの専門性を活かして調整を進める。ただし、患児（保護者）の了解を得てプライバシーの保護が必要である

学年（1年生・6年生）や、入院あるいは、退院する時期（学期初・学期末）も考慮する必要がある。

まとめ

クラスに籍がないこと小児がん患児とその家族は、地元校への復学を心から望んでいるが、地元校との交流が疎遠になってしまうことにより、復学への不安や不満を感じているケースも少なからず認められる。地元校とのつながりが維持されていること、地元校に居場所があることを、何らかの形で患児や保護者に伝えることは、自分は友だちから忘れられていない、みんな待っていてくれるという実感に結びつき、治療での頑張りに結びつく。子どもの不安・不満が保護者の不安・不満である。逆に子どもへのサポートが保護者へのサポートであり、過酷な治療を進めていく上で大きな意味を有していることが推察された。今後の復学の課題を検討する際、本アンケートの結果は大きな役割を果たすと思われる。